

5. 検討会の開催

5.1 検討会の名称

令和3年度伊根町再エネ活用型地域振興策検討会

5.2 検討会の開催目的

本町における再生可能エネルギー活用型地域振興策の実現可能性の検討を行うため、「令和3年度 伊根町再エネ活用型地域振興策検討会」を設置し、以下の各事項について、検討会委員の助言を得ながら、その実現化に向けた検討を行うことを目的とした。

- 1) 【PJ1】太陽光発電設備の導入に向けたEV活用デマンドモビリティシステム実証
- 2) 【PJ2】大規模太陽光発電と風力発電を主電源とした地域新電力事業の検討
- 3) 【PJ3】温泉熱等の新たな利活用策検討
- 4) 上記のほか検討のために必要な事項

5.3 委員の選定

検討会の委員を表5-1に示す。

表5-1 委員名簿

委員区分	氏名（敬称略）	所属・役職	役職
有識者	佐藤 充※	福知山公立大学 地域経営学部	助教
商工	亀井 徹	伊根町商工会	総括主事
観光	吉田 晃彦	一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社 伊根地域本部	事務局長
農業	小原 澄晴	伊根町農業委員会	会長
住民	村山 和雄	伊根地区区長協議会	会長
住民	奥野 均	朝妻地区区長協議会	会長
住民	池田 和夫	本庄地区区長協議会	会長
住民	一井 京一	筒川地区区長協議会	会長
社会福祉	佐藤 龍平	伊根町社会福祉協議会	事務局長
検討主体	吉本 秀樹	伊根町	町長

※座長

5.4 検討会の開催概要

検討会は、計3回開催した。

検討会の開催概要を表5-2～表5-4に示す。また、検討会での指摘事項をまとめた議事要旨を表5-5～表5-7に示す。

表5-2 第1回検討会の開催概要

日 時	令和3年8月27日 14時～15時30分
場 所	伊根町コミュニティセンターほっと館 ふれあいホール
出席人数	出席19名（うちWeb参加6名）、欠席3名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 昨年度のまでの振り返りと今年度の実施内容について (2) デマンド交通実証実験について (3) 本検討会での論点について (4) 意見交換

表5-3 第2回検討会の開催概要

日 時	令和3年11月26日 14時～16時
場 所	伊根町コミュニティセンターほっと館 ふれあいホール
出席人数	出席22名、欠席1名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第1回検討会での指摘事項 (2) デマンド交通実証実験の実施結果について (3) 電力需要量調査の実施状況及び地域内での再エネ電源利用に向けた方向性について (4) 生産品目に関する関係者ヒアリングの結果について (5) 意見交換

表5-4 第3回検討会の開催概要

日 時	令和4年2月18日 13時30分～15時30分
場 所	伊根町保健センター 運動指導室
出席人数	出席20名（うちWeb参加3名）、欠席3名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第2回検討会での指摘事項 (2) 温泉熱等の新たな利活用策検討について (3) 地域新電力会社の事業可能性について (4) EV活用デマンドモビリティシステム実証について (5) 次年度の取組内容について (6) 意見交換

表 5-5 第 1 回検討会の議事要旨

(デマンド交通実証実験について)

- 例えば、診療所に行く場合、利用者によっては終了時間がずれてくる。1 時間前に予約となると、利用者にとってどうなのかと思う。
 - 初めての試みのため、ご意見を頂戴し、より良い形に調整できたらと考えている。
- キャンセルボタンのようなものはあるか。
 - 予約を取り消しボタンがあるので、わかっているキャンセルについては、1 時間前までにしていただくことができる。また、「いねばん」で予約すると前日の 17 時に予約のリマインド通知がでるようになっている。
- 高齢者のキャンセル忘れは結構あるのではないか。今は実証だが、実施するとした場合に料金をとるのか、ということもある。キャンセルについて具体的に確認していないと、実際にやっていくときに難しいという印象を受けた。
- 伊根町には買い物するところがない。実証実験であるならば、町外の「にしがき」とかに行きたい需要がどれくらいあるのかを確認しておいたほうが今後のためになるのではないか。
 - 今回は、町内のコミュニティバスに変わるものとして、伊根町の地域公共交通会議で承認を得て実証実験を行っている。町外へ行くことはできないが、聞き取り調査で多くの要望・ニーズがあれば、次の展開の中で検討させていただきたいと考えている。
- 予約は何件までできるのか、また電話予約は「いねばん」での利用登録があったうえで電話でも予約ができるということか。
 - 1 人あたり 1 週間先まで 50 件の予約が可能。電話予約についても事前に参加申し込みをした方だけが利用できるようになっている。

(生產品目について)

- 生產品目の候補として、山野草、アスパラガスなどがあがっているが、キノコの栽培で廃校であるとかを利用するところまで考えているか。施設利用を含めた有効利用ができないか。
 - 遊休施設の利活用は検討に入っていないが、想いや意欲があるとなり、展開していけるとなったら、そういったところも検討していきたい。

(全般)

- デマンド交通実証実験や電気使用量の調査など、地域住民の方々にご参加いただきながらプロジェクトが進んでいくことになると思うが、町として、また町全体として検討していく内容について、できるだけ多くの方にご理解いただきながら、広げていくことが大切である。

表 5-6 第2回検討会の議事要旨

(デマンド交通について)

- 実証実験中のように無料であれば、皆さん利用すると思うが、料金設定をしないとどの程度利用があるかわからないのではないかな。
- 与謝野町など町外への運行の可能性はあるのかな。
- 現在のところは町内バスだが、生活圏的に交流がある宮津市、京丹後市に行く用事も多いので、伊根町に移り住む方が不便を感じないように、始めるにあたっては、そういうところまで想像して発展させていっていただきたい。
- デマンドタクシーとは別に、町が買い物ツアーを出しているが、それを有料にして毎週月曜あるいは月に何回か、病院行き用などを出すという案もあるのではないかな。
- 町外の病院に行く場合、検査などで予定通りに終わらないこともある。そういった場合の予約変更にもしっかり対応してほしい。
- 乗用車タイプは高齢者が乗り降りしづらいため、歩いてきたまま乗れる車両にされた方が高齢者にはよいのではないかな。
- 町内の方にも伊根町に来られる方にもすごく良いツールになると思うが、デマンド事業への認知が広がれば広がるほど課題がでてくる。ドライバーへの安全配慮や予約キャンセルのエビデンスのためにカメラをつけるなどの検討も必要ではないかな。
- デマンド交通に代わることによって既存のコミュニティバス利用者に不利益が生じないかどうか、そのあたりも十分に配慮する必要がある。

(地域内での再エネ電源利用について)

- 一般家庭の屋根であれば、お金をかければ太陽光発電が設置できるので、将来的には検討してもらいたい。
- ソーラーパネルの技術革新も進んでおり、また将来的に火力は使用できなくなる可能性があるがあるので、今は儲からないかもしれないが、そういう方向（再生可能エネルギーを活用する方向）に進んでいければ、利益の方も出るようになると思う。
- 風力は工事を伴うため、住民への影響がないような方向で進めてほしい。

(生産品目について)

- シイタケは中国産など安いものが入ってきている。やるとなったらなかなか大変で、どこへ売るかも問題になる。
- キノコ類はどのような施設でも作ることができるのか、販路を開拓して町外にも売っていくという形になるのか、廃校などの有効利用に繋がるものかどうか、このあたりはどうなっているか。
- キノコの菌床栽培は年がら年中とれるのか。

表 5-7 第3回検討会の議事要旨

(地域新電力会社の事業可能性について)

- 風力発電は風が足りないのに加えて、雷が落ちて風車が壊れるなど、自然災害もあり難しいと思う。太陽光発電は気候に左右されるので、計画と発電量が異なってくると思う。事業化するととなかなか難しいのではないか。
- 一般町民の電力需要に対して、残土処分場の太陽光発電の発電量が少なく、需要に対して残土処分場のソーラーでは覚束ない。市場から電力を買って補いながら事業を行う恰好になるか。
- 伊根町が電力会社で儲けを出す必要はなく、町民に安く電気が提供できれば良い。これによって、伊根町が脱炭素・カーボンニュートラルを進めていくことができたなら十分な話である。
- 残土処分場について、恒久的にパネルがかかるとなると、土が流れやすい状態になり、その対策や地盤の強化、融雪の関係、除雪や雪おろしも含めるとマイナスの面が多いのではないか。
 - その辺りは今後検討していく必要性があると認識している。
- 高齢化して田畑を作らなくなった土地を借り上げて、太陽光発電施設を整備するという可能性はあるか。
 - 休耕田の可能性については、来年度以降検討していきたい。

(EV 活用デマンドモビリティシステム実証について)

- 料金設定は収支を考慮して決めたものか。また、住民と観光客で料金設定を変えたほうがよいのではないか。
 - 料金は採算を重視することなく、住民の方々がどの料金設定であればご利用いただけるかというところで設定している。また、交通空白地有償運送の制度の中で、料金に差を設けてはいけないというルールがあり、同じ料金としている。住民の皆さんには、回数券を購入していただくことで、安く乗ることができるようになっている。
- デマンド交通の実証実験中に利用された方の中には、スーパーまでの足がなく、与謝野町まで行ってほしいという意見が多く聞かれた。
 - デマンドタクシーは交通空白地の対策として町内で運行する。一方で、乗って残そう公共交通ということで、路線バスとの棲み分けも必要であり、病院などで町外へ行く場合は路線バスを使ってほしい。無料の買い物支援バスや福祉有償運送もあり、これらと棲み分けて利用していただくことも必要である。
- 福祉有償運送はよく知らない人もいるので、棲み分けを整理して住民へ知らせしてほしい。
- 実証実験を利用した方の行先情報があれば、今後の利用促進に活用できると思う。
- これまでのコミュニティバスでは叶えられなかったドア to ドアや、夜間の運行も想定されているので、観光客の利用が促されて移動が増えて滞在が増えて消費が増えるという可能性が高まり観光振興としても大変ありがたい。ぜひいろいろとご案内しながら活用できたらと思っている。